

CONTENTS

・推薦文	3
・まえがき	5
・著者略歴	10

1章

下顎臼歯部に対するインプラント治療……11

1	インプラントの長径	15
2	ティッシュレベル(TL)とボーンレベル(BL)の使い分け	16
3	第一大臼歯までの短縮歯列の選択理由	17
4	1歯中間欠損におけるブリッジorインプラントの選択基準	18
5	インプラント周囲の角化組織の必要性	19
6	セメント固定式VSスクリュー固定式	21
7	ジルコニアアバットメントにおけるインプラント接合部の材料	23
8	シングルクラウンVSカンチレバーブリッジ	24
9	レギュラーインプラントVSナローインプラント	25
10	まとめ	27

2章

上顎洞底挙上術をともなう インプラント治療……33

1	上顎洞底挙上術をした部位におけるインプラントの生存率	34
2	上顎洞底挙上術と同時インプラント埋入ができる既存骨高径	37
3	骨補填材の選択	38
4	上顎洞粘膜穿孔への対応とその予後	40
5	サイナスリフト後の待時期間	41
6	インプラント長径の選択	42
7	歯冠・インプラント比について	42
8	ソケットリフトの選択基準	42
9	ソケットリフトでの洞粘膜の挙上限界	43

10 長径 6 mmのショートインプラントを用いたソケットリフト	43
11 耳鼻咽喉科医との連携	44
12 まとめ	45

3章

インプラント - アバットメントの 接合様式	49
---------------------------	----

1 バットジョイント	51
2 ティッシュレベル(TL)	58
3 プラットフォームスイッチング(PS)	60
4 まとめ	63

4章

審美領域におけるインプラント治療	65
------------------	----

1 審美性に関する術前評価	70
2 乳頭組織を形成するための条件	72
3 インプラント埋入時期の分類	73
4 抜歯後に生じる歯槽骨の吸収	73
5 Type 2に埋入することが推奨されている理由	74
6 適切な三次元的埋入位置	75
7 GBRに用いる骨補填材とメンブレン	77
8 インプラント埋入手術における 1 回法と 2 回法の選択	79
9 二次手術までの治癒期間	80

10	二次手術で選択する術式	80
11	SCTGによる軟組織増生の効果	81
12	SCTGを行うタイミング	82
13	インプラント埋入(GBR)と同時にSCTGを行った部位の治癒様相	85
14	軟組織増生術におけるSCTGの代替材料	86
15	プロビジョナルレストレーションの装着期間	86
16	隣在歯への補綴介入	87
17	上部構造の固定様式	88
18	術後の補綴的合併症	88
19	頭蓋顔面の晩期成長にともなうインプラントの低位現象	88
20	Type 1 の適用条件	88
21	Type 3 あるいはType 4 を選択する状況とは?	90
22	まとめ	92

5章

段階法GBRが必要なインプラント治療 95

1	骨欠損形態の分類とそれぞれに対応するGBRテクニック	96
2	ブロック骨移植	97
3	ソーセージテクニック	101
4	非吸収性メンブレンを用いた段階法GBR	107
5	まとめ	114

6章

抜歯後の歯槽堤の吸収を抑制する リッジプリザベーション 121

1	リッジプリザベーションの重要性	122
2	抜歯後の歯槽堤の硬・軟組織別の形態変化	126

3	抜歯窩のフラップによる初期閉鎖の必要性	127
4	使用する材料や術式の違いが結果に及ぼす影響	128
5	術式を決定するためのディシジョンツリー	130
6	非吸収性d-PTFEメンブレンを用いたリッジプリザベーション	134
7	Tiハニカムメンブレンのリッジプリザベーションへの応用	136
8	まとめ	138

7章

硬組織の合併症とそのリカバリー 143

1	硬組織手術に関連した合併症	144
2	まとめ	168

8章

軟組織の合併症とそのリカバリー 169

1	軟組織手術に関連した合併症	170
2	まとめ	192

・あしがき	194
・索引	195